

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199	地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと祭り開催事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課		内線
		番社						3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光施設を新たな観光資源として積極的に活用します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント来場者・荘川町民	対象者数	6,500 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・観光客の交流人口の増大を図る ・地場産業の活性化を図る ・次世代に受け継がれる郷土芸能の保存		
概要	事業の実施手法(手段)	・30頭の連獅子、荘川民謡や郷土芸能の披露と招待獅子の披露 ・郷土料理や特産品の販売		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成25年10月20日(日)イベント開催 雨のため来場者が減少 ・町内の各神社で受け継がれている獅子舞の披露と各神社から集められた獅子30頭による日本一の連獅子の披露 ・荘川民謡や郷土芸能の披露 ・招待芸能の披露 ・荘川特産品や郷土料理の販売					
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	ふるさと祭りチラシ新聞折り込み枚数	枚	目標値	130,960	130,960	64,000	
			実績値	130,960	64,000	-	
	算出根拠等	配布件数	達成率(%)	100	49	-	
活動指標	ふるさと祭り運営会議開催	回	目標値	9	9	11	
			実績値	9	9	-	
	算出根拠等	開催回数	達成率(%)	100	100	-	
成果指標	ふるさと祭り来場者数	人	目標値	5,500	5,500	6,500	
			実績値	6,000	1,500	-	
	算出根拠等	当日来場者数	達成率(%)	109	27	-	
成果指標	荘川地域10月の観光客入込客数	人	目標値	60,000	60,000	60,000	
			実績値	51,718	47,900	-	
	算出根拠等	観光客入込調査	達成率(%)	86	80	-	
成果指標	イベント出店者売り上げ額	千円	目標値	2,500	2,500	2,000	
			実績値	2,391	792	-	
	算出根拠等	出店者売上額	達成率(%)	96	32	-	
成果指標	荘川町民参加率	%	目標値	25	25	43	
			実績値	26	28	-	
	算出根拠等	荘川町民参加者(347人)/10月荘川町人口(1,223人)	達成率(%)	104	112	-	
補足事項							
紅葉の時期に合わせて行うイベントで、毎年多くの来場者で賑わうが、平成25年度は雨天により来場者が減少し目標値を上回ることができなかった。今回で25回目を迎え、毎年地域住民がー丸となって取り組んで続けている。また、各神社の獅子舞や荘川民謡など荘川地域の伝統芸能がふるさと祭りを通して、受け継がれている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円)			(A)	4,999	4,500	4,200
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			4,999	4,500	4,200
	コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A÷B)	833	3,000
受益者		イベント来場者数	(B)	6,000	1,500	6,500	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・毎年10月の第3日曜日は「ふるさと祭り」として定着しており、多くの来場者がリピーターとして訪れている。また、地域全体がイベントに参加して盛り上げており、地域の活性化にもつながっている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	荘川地域の一番大きなイベントで、地域が一丸となり取り組んでいる。地域が主体となり自己資金を集め実施していく
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	地域全体で取り組み、地域の伝統芸能の保存と伝承につながっている。またイベントの開催により観光客の集客にもつながっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	チラシやポスターの配布先や印刷枚数、各委託料などの支出の見直しを最低限にコストの削減に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	地域特有の文化を大切な観光資源として活用し、観光客の集客に効果があった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域で自主的に運営できるよう組織やイベント内容の見直しを行い、事業の継続を目指す。 ・荘川町全体が参加し開催しているが、イベントの目玉「30頭の連獅子」は参加する地域住民の高齢化が進み後継者不足が懸念される。
---	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・今後のイベント内容や目的の明確化、自己資金の確保などを決定しなければならない。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199		地域観光振興事業 (ひだ庄川清流あまご・やまめ釣り大会)			担当課	荘川支所 基盤産業課			内線
											3332
予算	会計	1	一般				特別 位置 付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費						B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費						C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費						D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画								
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光施設を新たな観光資源として積極的に活用します。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	126 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・荘川地域に数多くの釣りファンを招き、自然と清流の釣りのメッカとしての地位を確立する。 ・釣りのみならず、他のイベントや各観光施設に訪れる機会を創出する事で交流人口の増加と地域振興が図られる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・年に1回の釣り大会の開催 ・大会前日は、旅館組合に加入している宿泊施設に宿泊し、宿泊代と参加費をセットにし参加者を募集する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成25年5月26日(日)と平成25年9月8日(日)の2回開催						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	あまご・やまめ釣り大会開催回数		回	目標値	2	2	1	
				実績値	2	2	-	
	算出根拠等	大会開催回数		達成率(%)	100	100	-	
活動指標	遊漁証交付件数		人	目標値	4,825	5,000	5,000	
				実績値	5,501	5,131	-	
	算出根拠等	交付件数		達成率(%)	114	103	-	
成果指標	あまご・やまめ釣り大会参加者		人	目標値	140	100	70	
				実績値	139	126	-	
	算出根拠等	参加者数		達成率(%)	99	126	-	
成果指標	荘川町宿泊者数(1月～12月)		人	目標値	50,000	50,000	50,000	
				実績値	53,064	41,797	-	
	算出根拠等	宿泊者数		達成率(%)	106	84	-	
成果指標	イベント時宿泊売上推計		千円	目標値	1,050	525	525	
				実績値	1,043	945	-	
	算出根拠等			達成率(%)	99	180	-	
成果指標	イベント時宿泊者数		人	目標値	140	140	70	
				実績値	139	126	-	
	算出根拠等	イベント宿泊者数		達成率(%)	99	90	-	
補足事項								
昭和55年から開催されているイベントで、多くの釣り客がリピーターとなり毎年参加している。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)			(A)	499	300	150	
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				499	300	150	
	コスト指標			受益者1件当たり(円)	(A÷B)	3,590	2,381	2,143
		受益者	イベント参加者	(B)	139	126	70	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	宿泊が条件のイベントで庄川漁業協同組合や荘川旅館組合などからのニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	段階的に負担金を減らしており、27年度以降は自主事業として行うように考えている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	毎年行っているイベントでリピーターも多く、旅館や民宿への宿泊者も増加し成果はある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	旅館組合が中心となりボランティアでイベントを準備し、コストの削減に努めた。
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	イベントの開催により多くの釣りファンを呼び込み、イベント以外にも釣りに訪れる方が増えている。また、釣り以外にも各観光施設へ訪れるきっかけとなり、地域振興にもつながっている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		7	/	10	→	100点換算	70	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・毎年多くのリピーターが訪れるが、新たな参加者が少ないためより多くの人に参加してもらえるような取り組みが必要である。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・自己財源の確保に努め、自立した事業実施を指導する。
---------------------	----------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199		地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと夏まつり開催事業)		担当課		荘川支所 基盤産業課		内線	
		専任								3332	
予算	会計	1	一般			特別 位置 付け の 算	○	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費					B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費					C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	観光振興費					D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画									
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全トヨタ労働組合連合会組合員・荘川町民	対象者数	326,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して飛騨荘川ふるさと村づくりの取り組みや、組合員のふるさとして多くの方に季節を問わず荘川へ訪れていただき、町民との交流による地域の活性化を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して夏に1泊2日の宿泊型イベントを開催(荘川地域の民謡による盆踊り会・花火打ち上げ・星空観察会・魚つかみ・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成25年7月27日(土)～28日(日) 1泊2日のイベントの開催 荘川地域の民謡による盆踊り会・花火打ち上げ・星空観察会 魚つかみ・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー・じゃがいも収穫体験							
指標名				単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	イベント時参加者へのパンフレット配布組数			組	目標値	130	130	150	
					実績値	130	150	-	
	算出根拠等	配布数			達成率(%)	100	115	-	
活動指標	荘川町宿泊者数(1月～12月)			人	目標値	50,000	50,000	50,000	
					実績値	53,064	41,797	-	
	算出根拠等	宿泊者数			達成率(%)	106	84	-	
成果指標	組合員ふるさと村役場来村者数			人	目標値	6,400	6,400	6,500	
					実績値	6,500	6,500	-	
	算出根拠等	来村者数			達成率(%)	102	102	-	
成果指標	ふるさと夏まつり参加者数			人	目標値	650	650	700	
					実績値	800	775	-	
	算出根拠等	参加者数			達成率(%)	123	119	-	
成果指標	宿泊者数(イベント期間中)			人	目標値	550	550	600	
					実績値	550	625	-	
	算出根拠等	宿泊者数			達成率(%)	100	114	-	
				目標値					
				実績値			-		
算出根拠等				達成率(%)			-		
補足事項									
・全トヨタ労連に加入している各労働組合が、定期的に荘川町で研修会やイベントを開催するため、宿泊施設や各商店など地域の活性化につながっている。									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)				2,999	2,900	2,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
		一般財源				2,999	2,900	2,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)				3,749	3,742	2,857	
		受益者	イベント参加者(7月28日～29日)(B)			800	775	700	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		全トヨタ労働組合の組合員が多く参加するイベントで、イベントに必要な材料は大量になり、すべてを市内から購入している事から、地域の活性化につながりニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		全トヨタ労働組合は全国各地に組合員を持つっている大きな組織で、毎年多くの組合員が第二のふるさとして荘川地域に訪れている。全トヨタ労働組合と市が今後も連携を取り進めていく必要がある。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		一年を通して、組合員が荘川町を訪れ、宿泊施設や観光施設を利用しており、成果が上がっている	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B		イベント運営は、全トヨタ労連の運営委員の他、町内のボランティアで行っており、人件費の削減に努めている。	
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		毎年多くの組合員が荘川地域を訪れており効果はあった。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9	/	10	→	100点換算	90	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・全国規模の全トヨタ労連の影響は大きく、毎年安定した集客数が見込まれる。今後は、より多くの組合員が訪れるよう地域の魅力の紹介が必要である。 ・組合員と荘川町民の交流の場が少ないため、地域住民との交流の場が増えるような内容を検討する。
--	---

(参考)H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
---------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・イベントのみならず全トヨタ労連と地域との連携を再検討する。 ・組合員と荘川町民が交流できるような場を設けるなど、企画内容の見直しについて全トヨタ労連と協議し、次年度以降に繋げる。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199	地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと雪まつり)		担当課	荘川支所 基盤産業課			内線
		番組							3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目	1	観光振興費		D	その他事業			
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全トヨタ労働組合連合会組合員・荘川町民	対象者数	326,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して飛騨荘川ふるさと村づくりの取り組みや、組合員のふる里として多くの方に季節を問わず荘川へ訪れていただき、町民との交流による地域の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して冬に1泊2日の宿泊型イベントを開催(雪遊び・雪像作り・昔ながらの臼と杵での餅つき・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー・星空観察)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成26年2月15日(土) 1泊2日のイベントの開催 雪遊び・雪像作り・昔ながらの臼と杵での餅つき・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー・星空観察					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	イベント時パンフレット配布枚数		組	目標値	40	40	30
				実績値	30	29	-
	算出根拠等	配布数		達成率(%)	75	73	-
成果指標	荘川町宿泊者数(1月～12月)		人	目標値	50,000	50,000	50,000
				実績値	53,064	41,797	-
	算出根拠等	宿泊者数		達成率(%)	106	84	-
成果指標	組合員ふるさと村役場来村者数		人	目標値	6,400	6,400	6,500
				実績値	6,500	6,500	-
	算出根拠等	来村者数		達成率(%)	102	102	-
成果指標	ふるさと雪まつり参加者数		人	目標値	270	270	260
				実績値	260	285	-
	算出根拠等	宿泊者数		達成率(%)	96	106	-
成果指標	宿泊者数(イベント期間中)		人	目標値	150	150	150
				実績値	160	134	-
	算出根拠等			達成率(%)	107	89	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
・全トヨタ労連に加入している各組合が、定期的に荘川町で研修会やイベントを開催するため、宿泊施設や各商店など地域の活性化につながっている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)			(A)	1,001	1,000	750
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源				1,001	1,000	750
	受益者1件当たり(円)			(A÷B)	3,850	3,509	2,885
	コスト指標	受益者	イベント参加者	(B)	260	285	260

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		全トヨタ労働組合の組合員が多く参加するイベントで、イベントに必要な材料は大量になり、すべてを市内から購入している事から、地域の活性化につながりニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		全トヨタ労働組合は全国各地に組合員を持つている大きな組織で、毎年多くの組合員が第二のふるさととして荘川地域に訪れている。全トヨタ労働組合と市が今後も密に連携を取り進めている。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		一年を通して、組合員が荘川町を訪れ、宿泊施設や観光施設を利用しており、成果が上がっている	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		イベント運営は、全トヨタ労連の運営委員の他、町内のボランティアで行っており、人件費の削減に努めている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		毎年多くの組合員が荘川地域を訪れており効果はあった。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・全国規模の全トヨタ労連の提供は大きく、毎年安定した集客数が見込まれる。今後は、より多くの組合員が訪れるよう地域の宣伝活動が必要である。 ・組合員と荘川町民の交流の場が少ないため、地域住民との交流の場が増えるような内容を検討する。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・イベントのみならず全トヨタ労連と地域との連携を再検討する。 ・組合員と荘川町民が交流できるような場を設けるなど、企画内容の見直しについて全トヨタ労連と協議し、次年度以降に繋げる。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21899		地域自然環境保全事業費 (ササユリ群生地保護活動助成事業)	担当課	荘川支所 地域振興課		内線		
		番組						3312		
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費				○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C		終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目	18	環境政策費		D		その他事業			
根拠計画			地域振興計画							
市長公約		8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市を作ります。 ・環境保全に取り組みます。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町惣則地区住民		対象者数	66 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・全国的にも年々減少傾向にある「ササユリ」の保護及び育成 ・景観重点区域の保全のため、電牧柵の設置、雑木撤去、草刈、群生地地域の監視など地域が丸一丸となって活動実施 ・ササユリの保護及び育成を通して、惣則地域の景観保全や、地域住民の協調性を再確認し、自然と共存するやさしいまちづくりを目指す			
概要	事業の実施手法(手段)	・電牧柵の設置及び撤去 ・地域内の雑木撤去及び草刈り ・地域内の監視及び手入れ			

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		・電牧柵の設置及び撤去、雑木除去や草刈などの清掃管理など、地域が丸一丸となって保護活動を実施 ・集落の魅力を体感し、楽しんでいただくきっかけ作りのための「ささゆり群生地周辺マップ」を作成 ・パンフレットを印刷し、開花時期に訪れる観光客に配布する等、積極的に案内を行っている ・ササユリ保護・育成活動を通じ、農山村景観の保全の大切さを再認識し、地域住民が一体となって取り組んでいる				
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	清掃・草刈活動(4月から9月:毎月)	回	目標値	6	6	6
				実績値	6	6	-
				算出根拠等	実施回数	達成率(%)	100
	活動指標	電牧柵設置・撤去等	回	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	-
				算出根拠等	実施回数	達成率(%)	100
	成果指標	ササユリの開花数	本	目標値	10,000	10,300	10,300
				実績値	10,000	10,000	-
				算出根拠等	開花数	達成率(%)	100
	成果指標	観光客数	人	目標値	900	1,100	1,100
				実績値	900	800	-
				算出根拠等	観光客数	達成率(%)	100
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等			-
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等			-
補足事項							
・惣則地区は19世帯の小さな集落であるが、地域の誇りとしての「景観形成」(景観重点区域)や「宝」であるササユリを懸命に守っている。 ・周辺の草刈り(毎月)、ササユリの開花時期にはパンフレットの配布や観光案内など、訪れる人たちを歓迎している。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			130	130	130	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			130	130	130
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)			1,940	2,063	1,970
		受益者	惣則町内会住民(4月1日現在)(B)		67	63	66

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・全国的にも年々減少傾向にある「ササユリ」であるが、地域ぐるみで保護・育成に取り組み、ニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・自然と共存する環境保全のために、自主的な活動を支援する必要がある。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・ササユリ保護に関して、周囲の草刈りや電牧柵の設置が行われ、被害を防いでいるとともに開花時には多くの観光客が訪れている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・群生地(約5.5a)の電牧柵・草刈りなど、最小限の経費で保護活動を行っている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・景観重点区域であり、ササユリの保護活動を行っていることにより、地域に残る美しい農山村景観の保全が進められており、個性ある景観の保全及び「北野農村公園」の活用に繋がっている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・ササユリの保護・育成のため、惣則地域が地域ぐるみで活動を行っているが、地域の高齢化率が高く、後継者の育成が大きな課題となっている。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後のあり方を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・景観重点区域であり、ササユリを通じて農山村景観の保全活動を行っているが、後継者不足が問題となっており、自主的な取り組み(協働のまちづくり)の中で、活動のあり方を検討する。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)		担当課	荘川支所 地域振興課		内線	
		番社						3322	
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	3	民生費			〇	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	社会福祉費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	老人福祉費			D	その他事業		
根拠計画			高山市老人福祉計画						
市長公約		5	医療・福祉を充実させます。 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要介護者等への地域福祉体制を整備します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,751 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成						
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26		
活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000		
	実績値		9,584	9,677	-			
活動指標	算出根拠等	目標会員数/会員数の実績	達成率(%)	96	97	-		
	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	140		
活動指標	実績値		139	138	-			
活動指標	算出根拠等	目標クラブ数/クラブ数の実績	達成率(%)	97	99	-		
	成果指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40	
実績値		38		37	-			
成果指標	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95	93	-		
	活動指標	荘川地区連合長寿会会員数	人	目標値	250	250	250	
実績値		227		230	-			
活動指標	算出根拠等	目標会員数/会員数の実績	達成率(%)	91	92	-		
	活動指標	荘川地区連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	4	4	4	
実績値		4		4	-			
活動指標	算出根拠等	目標クラブ数/クラブ数の実績	達成率(%)	100	100	-		
	成果指標	荘川地区連合長寿会加入率	%	目標値	50	50	50	
実績値		49		50	-			
成果指標	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	97	100	-		
	補足事項							
・高山地域全体の加入率に加え、荘川地区の加入率等も成果指標とした。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)			(A)	420	420	420	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			150	149	280	
		一般財源			270	271	140	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	1,850	1,826	1,900
		受益者	荘川区会員数(4月1日現在)	(B)	227	230	221	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 (FA)評価にするために何が 必要なのかを記入)	・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199	地域観光振興事業 (荘川桜観光対策事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課		内線
		番 号						3332
予 算	会 計	1	一般		特 別 位 置 予 算 の 付 け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川桜来客数		対象者数	40,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	樹齢500年以上の荘川桜が開花する4月下旬から5月上旬は多くの観光客が荘川に訪れる。岐阜県の三大桜として有名な荘川桜を観光資源として活用し誘客を図る。			
概要	事業の実施手法(手段)	・交通案内看板の設置 ・荘川桜公園駐車場の交通警備委託 ・駐車場環境整備(仮設トイレの設置)			

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成25年4月20日～5月12日まで実施 ・交通案内看板の設置と荘川桜案内ガイド委託 ・荘川桜公園駐車場の交通警備委託 ・駐車場環境整備(仮設トイレの設置)					
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25
活動指標	荘川桜開花時交通警備業務日数		日	目標値	16	17	12
				実績値	16	12	-
	算出根拠等	交通警備業務日数		達成率(%)	100	71	-
成果指標	荘川桜来客数		人	目標値	50,000	50,000	40,000
				実績値	38,759	33,075	-
	算出根拠等			達成率(%)	78	66	-
成果指標	荘川町内4・5月の観光客入込数		千人	目標値	200	200	110
				実績値	110	102	-
	算出根拠等	観光客入込客数		達成率(%)	55	51	-
成果指標	荘川桜二世苗木配布本数(延べ)		本	目標値	3,200	3,300	3,600
				実績値	3,390	3,400	-
	算出根拠等	配布本数		達成率(%)	106	103	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
・荘川桜二世を育て、希望者に配布し桜の移植物語を全国に発信している。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			1,821	1,574	2,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,821	1,574	2,000	
	受益者1件当たり(円)(A÷B)			47	48	50	
	コスト指標	受益者	荘川桜来客数(B)	38,759	33,075	40,000	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・荘川桜は岐阜県の三大桜にもあげられ有名な桜となった。移植の物語が残る桜で、開花時には多くの観光客で賑わいニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・荘川桜の開花時には多くの観光客が訪れるが、駐車場が狭く駐車可能台数も少ないため、混雑を避けるためには警備員の配置により安全の確保は必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・荘川桜開花時は連休中となり、交通量が増加する時期となるが、警備員を配置することで、国道の多少の渋滞はあるが安全は確保されている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・桜の開花時期がぎりぎりまでわからないが、警備員の配置による安全の確保や、桜のボランティアガイドの対応により、事業の効率化を図った。
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・荘川桜の開花時には多くの観光客が訪れるため、駐車場の整備を始め、桜までの案内看板の設置、仮設トイレの設置を行い、環境整備を行うことで、観光客の安全確保に効果的であった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		10	/	10	→	100点換算	100	点
----	--	----	---	----	---	--------	-----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・開花に合わせた対応が必要である。
--	-------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、事業のあり方について検討する必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・開花時には多くの観光客が桜を見に訪れるため、仮設トイレや警備員の設置を行い安心・安全の確保を図る。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72199		地域道路橋りょう管理振興事業費 (市道未登記用地測量事業)	担当課	荘川支所 基盤産業課		内線
	番付						
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 付け		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	道路橋りょう総務費			D	その他事業
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます。 市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域住民	対象者数	1,204 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	未登記路線を整理し、市道の適切な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所の測量を行い、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・市道平頭町屋線(面積測量:54,465㎡ 登記済数:10筆) ・市道野々俣1号線(面積測量:229㎡ 登記済数:2筆) ・市道野々俣7号線(面積測量:1,121㎡ 登記済数:9筆) ・市道宮谷線(登記済数:2筆)						
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	対象路線数	本	目標値	1	3	6	
				実績値	1	3	-	
	算出根拠等	実施路線数/目標路線数		達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	面積測量	㎡	目標値	2,537	67,368	2,650	
				実績値	1,713	55,815	-	
	算出根拠等	実施面積/目標面積		達成率(%)	68	83	-	
	成果指標	登記済筆数	筆	目標値	13	34	20	
				実績値	1	23	-	
	算出根拠等	実施登記済数/目標登記筆数		達成率(%)	8	68	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
・未登記路線(15路線)の進捗状況は、登記完了8路線、登記一部完了2路線、登記完了予定5路線(H26度予定を含む)である。 ・この他に1路線の一部を着手する。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			4,186	6,596	4,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			4,186	6,596	4,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)			3,286	5,393	3,322	
		受益者	(B)		1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	事業を実施することにより、土地の課税対象が明確になる。さらに境界を確認することにより、所有権主張によるトラブルがなくなる。良好な道路管理をすることは重要であり、市民ニーズも高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市道敷地内の土地所有権を主張されるトラブルを未然に防ぎ、道路管理者として適正な道路管理を行うことで道路利用者(市民)の安全を図ることができる。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	相続登記等、個人の資産に係るため短期間では解決できない。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	用地境界確認の参考資料にするため、関連機関から資料を提供してもらうことにより、立会時間の短縮が図られた。また、調査・測量申請手続き等は一括して土地家屋調査士協会と単価契約を結び業務を遂行している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	「すみよき」のあるまちづくりをめざすため、道路用地を確保し適正な道路管理をすることの重要性は高い。また、境界を確定することにより、所有権主張のトラブルを防ぎ、かつ、固定資産税の適正課税ができる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・過去の経緯が不明なため、理解していただけないケースがある。 ・字絵図に不接合の箇所があるため民境界の確定に時間を要する。 ・未相続の共有地もあるため相続、分筆登記、所有権移転に時間を要する。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平瀬26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・計画に基づき所有者の理解を得ながら登記完了に向けて実施し、新たに分かった未登記路線にも着手する。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94199	花いっぱい運動推進事業		担当課	荘川支所 地域振興課		内線
		番 組						3312
予 算	会 計	1	一般会計		特 別 予 算 の 位 置 付 け		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	社会教育総務費				D	その他事業
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域住民		対象者数	1,204
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高山市民憲章の具現化に努め、明るい環境づくりを推進する。 ・花を育てることで広がる地域内のコミュニケーションづくりを推進する。 ・環境整備とコミュニケーションづくりを継続していき、住みよい地域をつくる。			
概要	事業の実施手法(手段)	道路沿線及び地域花壇(16地区)の花苗、肥料等の購入と、公共花壇の管理委託 ○花苗の購入: マリーゴールド、ニチニチソウ、パンジー、チューリップ ○肥料の購入: 苦土石灰、発酵鶏糞、油粕、腐葉土、化成肥料 ○消耗品の購入: 黒マルチ			

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・道路沿線及び地域花壇(1391.4㎡)の花苗、肥料等の購入。 ・植栽及び花壇の管理委託(他地域との公平性を考慮し、町内会へ花壇管理業務の委託料の段階的な縮小開始)						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	肥料・花苗配布件数		件	目標値	16	16	16	
				実績値	16	16	-	
	算出根拠等	配布先(町内会)件数の達成率		達成率(%)	100	100	-	
活動指標	花苗等配布本数		本	目標値	35,546	34,056	28,360	
				実績値	35,546	34,056	-	
	算出根拠等	花苗配布本数の達成率		達成率(%)	100	100	-	
活動指標	花壇面積		㎡	目標値	1,523	1,391	1,217	
				実績値	1,391	1,391	-	
	算出根拠等	花壇面積調査(支所実施)		達成率(%)	91	100	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
・花を育てることで、地域愛を再確認し、地域内のコミュニケーションを深めることに役立った。また国道沿線の花壇を美しくすることが訪れる人々への心地よい空間の提供(おもてなし)につながっており、来訪者からの評判も良い。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			1,927	1,573	1,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,927	1,573	1,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)			1,513	1,286	1,246	
		受益者	荘川地域住民(各年度4/1現在)(B)		1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域全体が心地よく住みよい環境づくりに非常に関心が高く、各家庭においても庭先を花で飾ったり、地域内の草刈りや沿道の草刈りなども積極的にやっている。地域の花壇の管理なども町内会が主体となって積極的に行っている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・町内会が主体となって実施する事業で、地域コミュニティを深める役割も大きい事業である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・花苗や肥料等の一斉配布により、町内全地域で花壇管理が実施され、地域全体が花で飾られ明るい環境づくりが実践されている。また地域のコミュニケーションづくりの機会となっており効果は大きい。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・町内会への花壇管理の委託料については、市全体のバランスを考慮し、段階的な見直し(縮減)を行っており、コスト縮減を図っている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・全町内で花壇管理が実施され、地域全体が花で飾られ明るい環境づくりが実践されている。また地域のコミュニケーションづくりの機会となっており効果は大きい。年2回の花苗配布や水やり、草取りなど年間を通じてかかわる事業であることも効果的である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9	/	10	→	100点換算	90	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・環境整備やコミュニティづくりの場として、継続的に実施していくことが不可欠であるが、高齢化が進展することにより管理面における地域の負担も大きくなり、花壇を縮小する地区が多くなっている。 ・花壇管理が困難な箇所については、植え替えの必要がない多年植物も含め、育てやすく手間のかからない花の選定が必要である。
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
-------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・花苗や肥料等の配布は、地域全体の環境整備と各地区のコミュニケーションづくりの機会として効果があり、継続して実施する。 ・手間のかからない管理しやすい花苗の選定を行う。 ・町内会への管理委託料の廃止。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699		地域文化振興事業	担当課	荘川支所 地域振興課		内線
	番付						3311
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6	文化振興費			D	その他事業
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		9	「伝統文化を守り、次代へ継承します」 「伝統文化の振興を積極的に支えます」 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化の活動をさらに浸透させ広げていく				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,204 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした文化振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成 ・文化講演会、文化祭(文化展)の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・平成25年11月2日(土) 文化講演会開催(講師:清水国明氏) ・平成25年11月2日(土)～3日(日) 文化展開催 ・平成25年11月3日(日) 荘川郷土芸能祭開催					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	文化講演会チラシ配布枚数		枚	目標値	900	900	900
				実績値	900	900	-
	算出根拠等	配布枚数		達成率(%)	100	100	-
活動指標	文化展チラシ配布枚数		枚	目標値	700	700	700
				実績値	700	700	-
	算出根拠等	配布枚数		達成率(%)	100	100	-
成果指標	文化講演会入場者数		人	目標値	150	150	150
				実績値	270	80	-
	算出根拠等	入場者数		達成率(%)	180	53	-
成果指標	文化展入場者数		人	目標値	350	350	350
				実績値	250	330	-
	算出根拠等	入場者数		達成率(%)	71	94	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
・荘川町民の皆さんが直に聞くことのできない著名人による講演会の開催。 ・荘川町民が作った作品の展示等、活動成果を披露する場となっている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)			(A)	1,100	1,100	1,100
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,100	1,100	1,100	
	コスト 指標	受益者1件当たり(円) 受益者 荘川町民(4月1日現在)			(A÷B) (B)	863 1,274	899 1,223

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・荘川地域で聞くことができない著名人による講演により、町民が地域の自然のすばらしさと生かすことの大切さを学ぶことができた。 ・文化展や芸能祭を行うことで、町民が芸術文化への関心を高めることができた。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・荘川地域の文化を振興する目的で行われる事業に対する支援である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・文化講演会、文化展、芸能祭に地域の子どもから高齢者までがつづい、地域全体で文化振興の向上が図られた。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト意識を持ち荘川地区社会教育運営委員会と連携を図りながら事業実施している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・荘川地域の伝統文化の振興の充実を図るよい機会となっている一方で講演会は、地域の自然を生かす思いを伝えたかったが、参加者が少なかった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・住民がもっと参加しやすくなるように講演会や文化祭などの内容を見直す必要がある。 ・地域住民がもっと参加しやすい講演会とするために、講師に対する住民のニーズを確認しながら開催することが必要。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域の住民がこれまで以上に参加しやすくなることを前提に、講演会における講師の選任や文化展及び芸能発表会における内容の検討を行う。 ・入場料の徴収等による財源確保について、荘川地区社会教育運営委員会との調整を図る。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		荘川文化財保存振興事業 (荘川民謡保存会助成事業)	担当課	荘川支所 地域振興課		内線	
		番組						3311	
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費				○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費					C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	7	文化財費		D		その他事業		
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		9	「伝統文化を守り、次代へ継承します」 「伝統文化の振興を積極的に支えます」 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づりにもつながる芸術文化の活動をさらに浸透させ広げていく						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川民謡保存会会員及び中学生(保存会参加者)		対象者数	59 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市無形文化財「荘川民謡」の保存活動を行っている団体に対して活動助成し、伝統芸能「荘川民謡」の保存や継承を推進することや、地域の子どもたちに伝え後継者を育成する。			
概要	事業の実施手法(手段)	・小中学校を対象とした後継者育成のための学習会開催 ・イベントなどでの荘川民謡披露 ・民謡衣装等の保存管理			

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・各種イベント時の民謡披露(荘川ふるさと夏まつり、ふるさと祭り、新成人を祝うつどい、芸能祭等)。 ・小中学校を対象とした後継者育成のための指導。				
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	民謡練習回数	回	目標値	12	12	12
	実績値		12	14	-	
	算出根拠等	月1回の練習	達成率(%)	100	117	-
活動指標	中学生を対象とした指導	回	目標値	8	8	8
	実績値		5	6	-	
	算出根拠等	中学校への訪問回数	達成率(%)	63	75	-
成果指標	各イベントでの出演回数	回	目標値	6	6	6
	実績値		5	5	-	
	算出根拠等	荘川民謡披露回数	達成率(%)	83	83	-
成果指標	中学生の保存会参加人数	人	目標値	30	26	39
	実績値		30	26	-	
	算出根拠等	中学生参加者数	達成率(%)	100	100	-
			目標値			
	実績値				-	
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
	実績値				-	
	算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項						
・中学生の後継者育成のため、荘川中学校を訪問し総合学習の一環として指導している。						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)		45	45	45	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
		一般財源	45	45	45	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)	1,047	978	763	
		受益者	荘川民謡保存会会員及び中学生(B)	43	46	59

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		A	少子高齢化による後継者不足が深刻化しており、荘川町の伝統芸能を後世に伝えるための育成指導が求められており、ニーズは非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		B	郷土の伝統文化を守り伝える活動に対する支援である。
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		A	中学生への指導等を行い後継者育成を行っており、対象中学生全員が躍ることができるようになっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		A	民謡の後継者育成のため、中学生を指導し、その成果を発表できるものになっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		A	荘川町の伝統文化の保存・継承における重要な役割を担っている。
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9	/	10	→	100点換算	90	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・現在の活動が今後も継続的に行うことができるよう新規会員の獲得が必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の支援のあり方を検討する必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・一般予算での実施に向けた協議調整を行いながら事業を実施する。
-----------------	---------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799	文化財標柱設置事業	担当課	荘川支所 基盤産業課		内線	
専任							3341	
予算	会計	1			一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9			教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4			社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	7	文化財費	D	その他事業			
根拠計画			地域振興計画、高山市環境基本計画					
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財等を解りやすく紹介するためのパンフレット、説明看板等の整備や、人と人との繋がりを大切にする語り部の育成に取り組めます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(1月～12月)	対象者数	385,424 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・指定文化財について、広く市民に周知するために標柱を設置する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・過去に設置されているものは木製で老朽化が著しいため、恒久的な石製の標柱に更新する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		文化財標柱を2箇所に設置						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	文化財標柱設置本数		本	目標値	4	2	2	
				実績値	4	2	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
成果指標	計画に対する標柱の設置状況		%	目標値	27	16	16	
				実績値	10	12	-	
	算出根拠等			達成率(%)	37	75	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
	・歴史的に価値のある文化財を後世に引き継ぐため、文化財への理解を高め保全意識の向上を図る。							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			756	389	400			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			756	389	400	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			2	1	1	
		受益者	385424	(B)	393,835	385,424	385,424	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・文化財を訪れる観光客が多くなったために、場所等の問い合わせが多くなり、設置の要望がある。 ・市民からは、文化財を保存・継承するために設置に関する要望もあり、ニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域が主体となり管理を行っているが、市の指定文化財であることや親しみを理解する機会を充実するためにも、見直す余地はない。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・毎年度、計画的に設置している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市域全体で共通の仕様書により発注を行っており、コスト縮減に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	B	・標柱の設置は、文化財を守り、次代へ継承する取り組みとして効果がある。
			B (1)	ある程度効果があつた		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (F)評価にするために何が必要なかを記入)	・石柱設置箇所を精査し、より効果が図られるよう設置場所の検討が必要である。
--	---------------------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・計画している標柱を平成26年度までに地域振興特別予算において設置する。
-----------------------	--------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・平成26年度で事業完了。
-----------------	---------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		地域スポーツ振興事業	担当課	荘川支所 地域振興課		内線	
		専決						3311	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	体育総務費			D	その他事業		
根拠計画				高山市スポーツ振興計画、地域振興計画					
市長公約				1	「合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします」 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,204 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	各種スポーツ大会を開催することで、スポーツと触れ合う機会から町民の健全な心と体を鍛えようと、一人1スポーツの重要性が認識され、健康で明るい地域づくりを推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・事業主体: 荘川地区社会教育運営委員会 ・開催時期: 随時(年間) ・事業内容: 各種スポーツ大会開催		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・バレーボール大会、ゲートボール大会、ソフトボール大会、ファミリー駅伝大会、グラウンドゴルフ大会、バドミントン大会、剣道大会、スキー大会の開催。				
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	スポーツ大会実施回数	回	目標値	8	8	8
			実績値	8	8	-
	算出根拠等	町民大会開催回数	達成率(%)	100	100	-
活動指標	参加者数	人	目標値	460	460	460
			実績値	479	400	-
	算出根拠等	全競技参加者数	達成率(%)	104	87	-
成果指標	平均参加者数	人	目標値	80	80	80
			実績値	60	50	-
	算出根拠等	スポーツ大会参加者数／開催数	達成率(%)	75	63	-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項						
・各種スポーツ大会を行うことによりスポーツと触れ合う機会を充実し、町民の誰もが参加しやすいスポーツ大会を開催している。 ・スキーや剣道など全国レベルの大会に中学生が出場するなど競技力の向上にも繋がっている。						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)		(A)	300	150	150
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			300	150	150
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A／B)	235	123
	受益者	荘川町民(4月1日現在)	(B)	1,274	1,223	1,204

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		各種スポーツ大会への参加者が固定されており、今後のPRやニーズに応じた企画が必要である。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		スポーツを通した健康で明るい地域づくりに対する市の支援である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげられている	A		各種スポーツ大会を通じ一人1スポーツの推進が図られ、更には全国に通じる競技力の向上が図られている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		荘川地区社会教育運営委員会との調整を図りながら改善・工夫に取り組む必要がある。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境を作るため、スポーツ活動の充実が図られている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・参加者が横ばい傾向にあるため、住民が参加しやすい種目について検討していく必要がある。 ・軽スポーツや健康に対する意識改革を行うことで生涯1スポーツで町民が参加し、健康促進を目的としたスポーツの普及やスポーツを行いやすい環境づくりが必要である。 ・荘川地域の施設や環境を有効活用し、スポーツの指導者の育成や、地域住民の体力向上を行いスポーツに対して普及や促進を進めていく必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・来年度以降の事業に向け、荘川地区社会教育運営委員会において見直す点がないかを確認しながら、前年度と同様の事業を行う。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199		ひだ清見お帰りキャンペーン事業	担当課	清見支所 基盤産業課		内線	
		専任						3231	
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費				○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費	D	その他事業				
根拠計画				地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川・清見住民	対象者数	3,748 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川地域と連携して、せせらぎ街道・やまびこ街道・さくら街道の利用者増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客パンフレットの印刷等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

	H25の実績		・観光マップの増刷 ・誘客キャンペーンの実施(3回)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	観光マップ配布枚数		枚	目標値	10,000	10,000	10,000	
				実績値	10,000	10,000	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
活動指標	誘客キャンペーン実施回数		回	目標値	3	3	3	
				実績値	4	3	-	
	算出根拠等			達成率(%)	133	100	-	
成果指標	清見町入込客数(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)		人	目標値	480,000	480,000	480,000	
				実績値	429,564	416,078	-	
	算出根拠等			達成率(%)	89	87	-	
成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)		%	目標値	92	112	115	
				実績値	100	97	-	
	算出根拠等			達成率(%)	109	87	-	
成果指標	荘川町観光客入込客数(1月～12月)		人	目標値	460,000	460,000	460,000	
				実績値	393,835	385,424	-	
	算出根拠等			達成率(%)	86	84	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			1,000	1,000	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,000	1,000	1,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)			257	264	267	
		受益者	荘川・清見住民(4月1日現在)(B)		3,894	3,781	3,748	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	・春の桜・秋の紅葉等の誘客により、地域の活性化につながり、市民のニーズが高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	B	・市と民間がそれぞれ主体となつて行うべきものの整理が必要。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	B	今後も引き続き観光キャンペーンなどにより、地域の魅力をPRしていく必要がある。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	・荘川地域、清見地域の関係機関と連携して協議会を設立し、事業を行うことで、市長の公約に結びついている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・両地域への誘客により地域活性化に繋げるためにも、事業の内容や方向性を検討する必要がある。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の支援を縮小していく必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・両地域の魅力を最大限にPRし、誘客増員を図る。 ・特例期間終了を見据え、今後のPR方法や事業内容を協議会で検討する。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62399	地域観光施設事業 (荘川の里整備事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課		内線 3331
		専任						
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	観光施設費			D	その他事業	
根拠計画		第七次総合計画(後期)、実施計画						
市長公約		10	市民のための行政改革を断行します ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効利用を行います					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用客数(4月～3月)	対象者数	10,800 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・老朽化が著しい「ふれあい橋」の木製部分を取り替えることで、施設利用者の安全が確保される。 ・植樹されている樹木の巨大化により、景観の悪化を招くとともに入館者へ枝等が落下する危険性があるため、整備することで入館者の安全を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ふれあい橋の木製部分(欄干、床版等)の修繕 ・支障木の伐採		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		平成26年度(単年度)事業のため実績なし						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果指標	施設利用客数(4月～3月)		人	目標値			4,500	
				実績値			-	
	算出根拠等	観光客入込客数調査		達成率(%)			-	
成果指標	施設利用者数 ふるさと祭り来場者数		人	目標値			5,500	
				実績値			-	
	算出根拠等	当日来場者数		達成率(%)			-	
成果面	成果指標	施設利用者数 ふるさと夏まつり来場者数		人	目標値		800	
					実績値		-	
		算出根拠等	当日来場者数		達成率(%)		-	
				目標値			-	
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
				目標値			-	
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
	補足事項							
・ふれあい橋は荘川の里からふるさと祭り会場に通じる唯一の移動路であり、ふるさと祭り当日をはじめ非常に多くの人の往来がある。また、国内の木々は、巨木化・古木化により景観の悪化及び枝の落下による事故の恐れがある。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			0	0	15,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源					15,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)					1,389	
受益者		施設利用者(H26目標値) (B)				10,800		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業		
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業		
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業		
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業		
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	評価対象外	H26新規事業		
			B (1)	ある程度効果があつた				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	平成26年度(単年度)事業完了
---	-----------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	平成26年度(単年度)事業のため評価無し
-----------------------------	----------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	平成26年度(単年度)事業完了
---------------------	-----------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	74799		地域快適環境整備振興事業費 (沿道修景整備事業)	担当課	荘川支所 基盤産業課		内線
	番組						3341
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画、高山市環境基本計画				
市長公約		4	市民が幸せな家庭生活をおくり、安心して暮らせる地域を築くため、地域のコミュニティ活動や観光整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(1月～12月)	対象者数	385,424 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・国道156・158号沿線及び荘川町内の市道等の環境整備(草刈り)を実施し、不法投棄の防止及び沿道の環境美化により「すみやすさ」を感じられるまちづくりを目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	・沿道修景整備(草刈り)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・国道158号線外沿線の環境整備(草刈り)					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	沿道修景整備(草刈)		ha	目標値	3	3	3
				実績値	3	3	-
	算出根拠等	整備面積		達成率(%)	100	100	-
成果指標	観光客数(荘川地域1月～12月)		人	目標値	460,000	460,000	460,000
				実績値	393,835	385,424	-
	算出根拠等	観光客入込数(1月～12月)		達成率(%)	86	84	-
成果指標	不法投棄			目標値	0	0	0
				実績値	0	0	-
	算出根拠等	不法投案件数		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
・環境美化意識の向上、外来植物の駆除。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			1,869	1,785	2,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,869	1,785	2,000	
	受益者1件当たり(円)(A/B)			5	5	5	
	コスト指標	受益者	観光客入込数(1月～12月)(B)	393,835	385,424	385,424	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・環境美化活動が高齢化により、実施出来ない箇所があり町民からの要望が増えている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・岐阜県が管理する部分を除き実施。 ・町民の環境美化活動が高齢化により、実施出来ない要望箇所を実施する。 ・不法投棄防止の啓蒙推進のため。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・環境保全や不法投棄防止及び外来植物の駆除にも寄与しており、目標を達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・住民要望に対応した実施箇所の検討及び適切な時期の実施に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・環境保全が住みよい町づくりの目的に合致している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・沿道景観の保全に対する住民要望も多く、実施場所の精査が必要である。 ・地域住民と連携し効果的な外来植物の駆除を図る必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・県が管理する道路の草刈は、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・不法投棄の防止や外来植物繁殖地の駆除の観点から実施箇所を精査する。
-----------------	------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		92199		地域小学校管理事業費 (黒谷地域生活環境整備事業)	担当課	荘川支所 地域振興課		内線
		番組						
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	小学校費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	学校管理費		D	その他事業		
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		10	市民のための行政改革を断行します。 ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します。 ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,204 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	荘川プールを解体・撤去し、地域住民が安心して生活できる環境を整え、農山村景観の保全を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	荘川プールの解体・撤去		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績								
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	荘川プールの数		施設	目標値			1	
				実績値			-	
指標	算出根拠等	解体・撤去対象のプール数		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
算出根拠等				達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
算出根拠等				達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			0	0	15,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源					15,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)					12,874	
		受益者	荘川地域住民(4月1日現在) (B)				1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	平成26年度新規事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	平成26年度新規事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	平成26年度新規事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	平成26年度(単年度)事業
--	---------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	平成26年度(単年度)事業
-----------------------------	---------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	平成26年度(単年度)事業
---------------------	---------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		92299		地域小学校教育振興事業費 (新島小学校交流推進事業)	担当課	荘川支所 地域振興課		内線
番組						3321		
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	小学校費			○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	教育振興費		D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		106	合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学6年生	対象者数	15 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川小学校と東京都新島小学校との交流を深めることは、相互の伝統・文化・習慣などを学び、広い視野に立ち郷土を理解することができる。また、義民甚兵衛と孝子勘左衛門の道徳を偲び、数々の体験や感動の中から郷土愛や親子の絆を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川小学校が東京都新島小学校を訪問し交流を行う。 ・実施期間：平成26年7月 場所：東京都新島小学校 対象：荘川小学校6年生全員12名・引率3名・新島研修に向けての事前学習・たからもの発表会(学習発表会)実施		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・実施期間:平成25年7月15～17日 2泊3日 ・場所:東京都新島小学校 ・対象:荘川小学校6年生12名・引率3名 ・たからもの発表会(平成26年2月28日)開催						
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果面	活動指標	新島交流参加者数	人	目標値 実績値	12 12	22 22	15 -	
	目標	算出根拠等	小学校6年生児童及び引率	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	新島交流参加率	%	目標値 実績値	100 100	100 100	100 -	
	目標	算出根拠等	小学校6年生児童及び引率	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	たからもの発表会(学習発表会)参加者数	人	目標値 実績値	200 200	200 150	200 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	100	75	-	
				目標値 実績値				
				達成率(%)			-	
				目標値 実績値				
				達成率(%)			-	
				目標値 実績値				
				達成率(%)			-	
	補足事項							
	・新島小学校との交流を行うことにより郷土愛や親子の絆を深める							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
		歳出(千円)(A)			420	720	520	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		コスト指標	一般財源			420	720	520
受益者1件当たり(円)(A/B)				35,000	32,727	34,667		
	受益者	荘川小学校6年生及び引率者(B)		12	22	15		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・荘川町の小学生が新島へ行くことにより荘川の歴史の勉強や市民相互のふれあい、交流を通じ、荘川に住み続けたいという思いを育てており、当事業に対する住民の思いは大きい。 ・たからもの発表会(学習発表会)において、保護者や住民の方に対し、自分たちが今年度学んだ新島研修について発表している。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・郷土の歴史に触れることにより、地域を愛する心を育てることができる。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・荘川町と新島村との交流事業を通じて郷土愛を育むことができ、その結果が「たからもの発表会」で聞くことができる。 ・「たからもの発表会」(学習発表会)において、今年度新島交流を行ったことに対して学んだことを保護者や地域の方に見ていただき、交流参加者以外にとっても郷土愛を深めることに役立っている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・1人あたりの適正な研修単価を考慮し実施しており、概ね妥当であるが、コスト削減に努める。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・荘川町と新島村の子どもたちの交流を深めることにより、郷土愛の醸成が図られている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・荘川町民全体で支援できるシステムの検討が必要である。(協働のまちづくりでの支援、アルミ缶回収への協力による支援)
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・荘川地域において新島村交流を総合的に検討し、継続実施できるよう取り組んでいる。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199	地域観光振興事業 (広域連携誘客推進事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課		内線
		専任						3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	観光振興費		○ D	その他事業		
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間と行政、観光関係者をはじめ地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図る。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域の観光客入込数(1月～12月)	対象者数	385,424 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	国道156号の利用客を増やすため、郡上市高鷲町・大野郡白川村・荘川町の3地域が連携し国道沿線の観光資源を利用して、点ではなく線で結ぶ観光の誘客を進める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・3地域(高鷲・荘川・白川)の観光施設等を紹介した周遊マップの作成。 ・国道156号(さくら街道)をPRし、多くの観光客に周遊してもらうため観光施設を回る「さくら街道スタンプラリー」の実施		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		①高鷲・荘川・白川連携誘客推進事業「3地域周遊ドライブマップ」の作成 ②荘川・白川連携誘客促進事業「さくら街道スタンプラリー」の実施						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	スタンプラリー・周遊マップ配布枚数		枚	目標値	50,000	50,000	24,000	
				実績値	32,100	32,100	-	
	算出根拠等	配布枚数	達成率(%)	64	64	-		
活動指標	スタンプラリー・周遊マップ配布箇所		箇所	目標値	36	35	35	
				実績値	36	35	-	
	算出根拠等	配布箇所	達成率(%)	100	100	-		
成果指標	スタンプラリー応募者		人	目標値	1,500	1,500	1,600	
				実績値	1,512	1,438	-	
	算出根拠等	応募者数	達成率(%)	101	96	-		
成果指標	観光客入込客数(1～12月)		人	目標値	460,000	460,000	400,000	
				実績値	393,835	385,424	-	
	算出根拠等	観光客入込調査	達成率(%)	86	84	-		
成果指標	国道158号交通量(8月14日～15日調査)		台	目標値	3,000	3,000	3,500	
				実績値	2,867	3,550	-	
	算出根拠等	お盆交通量調査	達成率(%)	96	118	-		
				目標値				
				実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)				-	
補足事項								
・国道156号沿線の郡上市高鷲町・白川村・荘川町の3地域が連携をとり、広域的な誘客を図ることができた。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			721	570	600		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			721	570	600	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)			477	396	375	
受益者		スタンプラリー参加者	(B)	1,512	1,438	1,600		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・高鷲・荘川・白川地域が連携し誘客を行う事で、広域的に地域の魅力をアピールできる。3地域の評価も良くニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・観光協会が主体となり広域連携事業として行い、市が負担金として支出しているが、広域的に地域の各団体が自主事業として実施できるようにする。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・スタンプラリーを実施する事で、さくら街道の良さを知ってもらう事により、スタンプラリー実施期間外の桜の時期や紅葉の時期にも国道156号を利用してもらえ成果は上がっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・3地域が負担金を出し実施している事業で、パンフレットの作成やスタンプラリーの台紙の印刷枚数の見直しなど行いコスト縮減に努めた。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・広域で行う事で、観光客が目的地以外にも近くの観光施設へ立ち寄るきっかけとなり効果は出ている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		7	/	10	→	100点換算	70	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・地域連携によるスタンプラリーの参加者を増やすための宣伝方法を工夫する必要がある。
---	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・民間団体主体への移行を検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・スタンプラリーの実施を多くの皆さんに知ってもらい参加してもらえよう、告知を行う。 抽選賞品は、もう一度地域へ訪れてもらえるような品々にし、関係団体からの商品の提供を依頼するなど、負担金が減っても続けられるような仕組みづくりを行う。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		地域文化財保存振興事業 (化石を活用した地域振興事業)		担当課		荘川支所 地域振興課		内線 3321	
		番組									
予算	会計		1	一般会計		特別 位置 付け の	A		合併前から実施されているイベント・行事		
	款		9	教育費			B		一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項		4	社会教育費			C		終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		7	文化財課			O		D その他事業		
根拠計画				地域振興計画							
市長公約			1	新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・化石フォーラムを開催し、高山市 の化石を全国発信し地域振興に繋げる。 ・郷土の自然遺産に誇りを持つ子どもたちを育てながら次世代の担い手を育成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・国立科学博物館や京都大学などの各研究機関との連携を密にし、研究者と協力して化石フォーラム及び、市民を対象にした化石教室を開催する。 ・市民が参加しやすい化石発掘教室を開催する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・化石フォーラムの開催(8/4) ・化石発掘教室の開催(9/29,10/6,10/19,10/27,11/4)					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	化石フォーラム開催回数		回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
	算出根拠等	小学校6年生児童及び引率		達成率(%)	100	100	-
活動指標	化石発掘体験教室開催回数		回	目標値	3	5	4
				実績値	4	5	-
	算出根拠等	小学校6年生児童及び引率		達成率(%)	133	100	-
活動指標	化石フォーラム講師招聘人数		人	目標値	8	8	8
				実績値	8	8	-
	算出根拠等	参加者数		達成率(%)	100	100	-
成果指標	化石フォーラム参加者人数		人	目標値	100	70	70
				実績値	120	80	-
	算出根拠等			達成率(%)	120	114	-
成果指標	化石発掘体験教室参加人数(延べ人数)		人	目標値	60	75	60
				実績値	69	75	-
	算出根拠等			達成率(%)	115	100	-
成果指標	荘川地域のエコツーリズムにおける化石発掘体験の実施回数		回	目標値	5	5	5
				実績値	3	3	-
	算出根拠等			達成率(%)	60	60	-
補足事項							
・市内小中学校を対象とした「化石発掘体験教室」において、参加者の小学6年生の児童が草食恐竜の歯の化石を発見し、全国紙に掲載されるなど全国への情報発信もされた							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)			(A)	798	1,000	1,000
	財源	受益者負担(使用料・負担金等)					
	財源	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	財源	一般財源		798	1,000	1,000	
	コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A÷B)	4,222	6,452	7,692
		受益者	化石フォーラム等参加者数	(B)	189	155	130

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		・荘川地域は全国でも有数の化石が発掘されており、化石は荘川地域の大切な「宝」のひとつであるが、化石フォーラムの参加者は高山市民以外の方の参加多い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・化石に関する研究は専門性が高いため、調査・研究は大学等研究機関と連携が必要である。 ・子ども達のための体験や荘川で発掘できるという魅力を発信する部分については、「化石発掘教室」を民間団体主導で実施することが必要である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・平成25年度で化石フォーラムは15回開催しリピーターも増え、化石に関する関心が高まっていることから、「荘川の化石」というイメージが定着している。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・荘川化石調査研究推進委員会に委託しているが、講師については交通宿泊費のみで実施していただいている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B		・高山市内に住む子どもたちに化石を身近に感じてもらうことができ、今後の担い手づくりに寄与することができた。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7	/	10	→	100点換算	70	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・荘川地域の化石を活用していくための担い手不足が続いている。 ・荘川地域の化石は日本でも珍しく貴重であることを荘川町内及び町外に周知することが必要である。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・平成26年度も化石フォーラムや化石発掘教室を開催し、高山市内に住む子どもたちに化石の素晴らしさ、面白さを学んでもらえるようにする。 ・荘川町内で実施されるエコツーリズムの体験メニューとして、化石を題材とした体験活動を進める。 ・平成27年度以降も市内の子どもたちを対象としている「化石発掘教室」を継続できるよう関係機関と調整する。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	〇	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999		地域振興助成事業	担当課	荘川支所 地域振興課		内線
	番 種					3321	
予 算	会 計	1	一般会計	特 別 位 置 予 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		40 106	市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,204 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・住民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援することにより、地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進し、特色ある地域づくりによる地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対し、事業費の支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

	H25の実績		補助件数 11件						
	指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	申請件数			件	目標値	10	10	11	
					実績値	7	11	-	
目標	算出根拠等 町内会等からの申請件数 年10件				達成率(%)	70	110	-	
活動指標	補助件数			件	目標値	10	10	11	
					実績値	7	11	-	
目標	算出根拠等 申請件数×100%				達成率(%)	70	110	-	
成果指標	1件あたりの平均補助額			円	目標値	340,000	300,000	250,000	
					実績値	186,773	318,182	-	
目標	算出根拠等 総補助額／補助件数				達成率(%)	55	106	-	
成果指標	ハード事業実施割合			%	目標値	75	75	75	
					実績値	57	82	-	
目標	算出根拠等 ハード事業数／補助件数				達成率(%)	76	109	-	
					目標値				
					実績値			-	
目標	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
目標	算出根拠等				達成率(%)			-	
補足事項									
・支所地域のPRと特産品販売の拠点として運営されている飛騨高山アンテナショップへの運営費補助も含まれる									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)				1,307	3,500	2,900		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源					1,307	3,500	2,900	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)				1,026	2,862	2,409	
	受益者	荘川町民 (B)			1,274	1,223	1,204		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		・地域住民が自らの手で地域をより良いものにするようという意識が高くニーズが高い。ただし、高齢化等で労力を提供できない団体が増えている。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		・安全・安心・快適な住環境づくり、特色ある地域づくり及び地域の活性化を推進することは、住みよいまちづくりを図ることができるため、市が支援することは望ましい。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・各町内会等の創意工夫ある地域振興事業が実施され、安全・安心・快適な住環境づくり、特色ある地域づくり及び地域の活性化を図ることができた。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・補助交付決定の際に審査しており、適正な支援を行っている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・地域住民が自ら実施する地域振興事業に対して支援することにより、特色ある地域づくりを推進し、地域住民が自主的、主体的に取り組む機運が高まっている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・労力は地域住民が提供することとなっているが、高齢化等で労務を提供できない地域もあることから、他の支援方法を含めて検討する必要がある。
---	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・町内会等に対し具体的な事業例を示して補助の活用を周知した。 ・地域振興特別予算が26年度を以って終了するため、地域自らが荘川地域の活性化や魅力ある地域づくりを行うため協働のまちづくりの中で協議を進めている。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999		地域要望対応事業	担当課	荘川支所 地域振興課		内線
	番種						3321
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	D その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		40 106	市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,204 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市道、農道、水路、市所有施設等の公共施設の軽微な修繕など地域からの要望に対し即座に対応することにより、安全・安心・快適なまちづくりと特色ある地域づくりによる地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路、市所有施設等の公共施設の軽微な修繕に対し修繕を実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

	H25の実績		修繕実施件数 12件						
	指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	各町内会からの当初要望提出件数			件	目標値	80	80	80	
					実績値	89	96	-	
活動指標	算出根拠等 約5件×16町内会				達成率(%)	111	120	-	
	当初要望に対する現場確認件数			件	目標値	80	80	80	
活動指標					実績値	89	96	-	
	算出根拠等 当初要望提出件数×100%				達成率(%)	111	120	-	
成果指標	要望に対しこの事業で対応した件数			件	目標値	10	10	5	
					実績値	3	2	-	
成果指標	算出根拠等 要望提出件数×6.25%				達成率(%)	30	20	-	
					目標値				
成果指標					実績値			-	
	算出根拠等 ハード事業数／補助件数				達成率(%)			-	
成果指標					目標値				
					実績値			-	
成果指標	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
成果指標					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
補足事項									
・高山市で対応できる要望に対しては、できる限り対応できるようにしており、軽微なものに関しては即座に対応している									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)				8,530	9,411	2,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
		一般財源				8,530	9,411	2,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)				6,695	7,695	2,076	
		受益者	荘川町民 (B)			1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A			・平成25年度において、各町内会から96件の要望があり、他事業での実施することを考慮しても、当事業に対するニーズは非常に高いと考えられる。
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A			・市が管理する施設を対象とした修繕であるため、妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B			・各町内会からの要望に対して、事業の優先度や真に地域振興に資する事業であるかを判断し、その結果について各町内会長に説明し、理解を得て実施している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A			・修繕方法の工夫等を行い、コスト削減に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A			・全ての要望に対し現地確認を行い、今後の対応について住民へ説明しており、地域の要望に対応することができた。
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・平成27年度からは地域で修繕箇所 の優先順位を選定するため、地域自らが判断できるような仕組みづくりを検討する必要がある。
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・平成27年度からは地域で修繕箇所 の優先順位を選定する必要があるため、地域自らが判断できるよう町内会等に働きかけている。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定